

一日一言、一日一生



文学部長
河西良治

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんに贈りたいこの言葉は、厳しい時代を生き抜いてきた先人たちの言葉をヒントにして自分の生きる力を日々見出してほしいという願いと、昨日の失敗や明日の不安に過度に縛られずに、今日という一日を充実して生き切つてほしいという願いを込めたものです。

現代のような激しく揺れ動く時代を生きていくことは誰にとっても容易なことではありません。しかし、これまでも厳しい時代を生き抜いてきた先人たちがいます。過去の時代を生き抜いてきた人たちの言葉から今を生きるヒントを見出して、新しい時代に対応する柔軟な生き方を身につけてほしいというのが私の願いです。これまでの歴史から得られた教訓を支えに皆さんは生きていくことができます。また、今を生きる同時代人たちと智恵を出し合いながら共に生きる連帯感を支えに生きていくこともできるのです。

皆さん一人ひとりは確かにこの地球上にたった一人しかいないかけが

えのない存在ですが、同時に、歴史という縦のつながりと社会という横のつながりが交差する十字路に皆さんは立っています。皆さんは、過去の人たち、また、同時代人たちの中に囲まれて生きる仲間の一人であり、一人であつて一人でないのが人間の姿であると思います。歴史を生き抜いた先人たちの智恵の言葉や、今を共に生きている社会の仲間たちの智恵の言葉を「一日一言」でいいから心の糧にして、その支えのなかから心を活かしていく。そして、「一日一生」、かけがえない日々を大切にして充実した一日を生き切つてほしいと願っています。そのためには、日々新しいことに素直に心を開いて謙虚に学ぶという姿勢を一生持ち続けることが大切だと思います。

これから激動の社会に巣立つて飛翔していく皆さん、きつと羽を休めたくなるときもくるでしょう。そんなときには、この素晴らしい自然環境に恵まれた母校に羽を休めにいってきてください。私たちはいつでも歓迎です。

自分を大切に、そして人を大切に生きてください。

激変する社会に対応できる力を発揮してください



総合政策学部長
河野光雄

卒業おめでとう。

就職率が調査開始以来の最低を記録した年に卒業を迎えた皆さんは、長い就職活動を経て何とか職を確保できた人はもとより、早々と進路を決める人ができた人でもさえ、教育と職業の接続に大きなギャップが生まれつつあることを肌で感じ取つたことと思います。景気低迷から縮小を続ける国内市場で生きる企業は正社員を厳選するようになり、国際市場に活路を見出そうとする企業は国際的に活躍できる人材を求めています。今日就職難は社会の変化に対する大学教育の感度の鈍さに責任があるといえるでしょう。激しく変化する時代に求められる力は、高い専門知に裏付けられた分析力と総合力に加えて、コミュニケーション能力、ディベート力、創発力、起業力、協業力、そして何よりも情熱です。この人間力というべきものはこれまで大学教育ではほとんど考えられては来ませんでした。

厳しい条件の中で進路を定めて羽

ばたこうとしている皆さんは、大学で学んだものとは違うものを就職戦線ですぐにちがいがありません。ぎりぎりの闘いの中で、大学教育ではカバーできなかった力を実践的に身につけたもので、それらは生きる知恵として、生きる意欲として皆さんの身体に結実していることと思います。経済のグローバル化にもかかわらず、日本型雇用慣行は依然として生き続けていますから、皆さんは就職活動が終わつてほつとする間もなく、様々な因習に起因する障壁と闘わなければならない日々をこれから送らなければならないでしょう。でも時代は時に劇的に変わり、皆さんが組織や社会を牽引する日はそう遠くなく来るに違いありません。その責任を進んで引き受ける人になってください。少子高齢化に対する処方箋に日本社会はそれはいまありません。皆さんはあらたな社会の制度設計に力を尽くしてください。大学に残る私たちは、皆さんが経験した苦闘を謙虚に傾聴し、就職難を死語にする覚悟で時代に対応できる教育の創造に献身していくことを約束します。